

【 パラグアイ・セントロ日系活動の軌跡 】

「パラグアイ・セントロ日系」は 1987 年 2 月 25 日に、スペイン語で育ち都市で暮らしている日系二世を中心とする若いグループの集いの場として設立されました。同時に掲げた大きな目標は世界各地で暮らす他の日系人との交流を図ることでした。当時既に米州各地に在住の日系人は 2 年に一度各国持ち回りで全米日系人大会を開催しており、1987 年ブエノスアイレス開催の第 4 回全米日系人大会において、まだ創設されて間もないヨチヨチ歩きの状態にもかかわらず、我々が 1991 年開催予定の第 6 回大会開催を引き受けることにしました。

会員一丸となりまた色々な方の協力を得て大会は大成功、米州大陸各国、オーストラリアの日系人代表、そして日本からはアントニオ猪木参議院議員を始めとする代表団が参加、開会式典にはアンドレス・ロドリゲス大統領閣下に臨席いただき、参加者総数 450 人の盛会で、現在に至るまで最も組織された大会との高い評価をいただいております。



(写真:アスンシオン開催の第6回全米日系人大会)

この第 6 回全米大会の収益金や会員の寄付などを元にアスンシオン郊外のイタグア市に本部用地としてまず 16ha の土地を購入し、その後徐々に周囲を買い足し、現在の敷地面積は 23,5ha となっています。土地の取得と共に 1992 年には灌木と雑草生い茂る土地の伐採開墾を開始、会員は自発的に土地の清掃、植林、果実の植樹、芝の植え付け等の作業を行いました。このような献身的な活動が認められ、1995 年当時の財団法人日本万国博覧会協会により本館建設に日本万国博覧会記念基金の助成を受ける事が出来ました。



(97 年本部開所式典での大統領、大使、森谷会長)



(01 年増築開所式でのフランコ副大統領と伊藤大使)

万国博覧会記念基金による助成金 2000 万円とセントロ日系会員の協力により、セントロ日系本部プロジェクトの第一期工事として本館と付帯設備の建設を行い、1997 年2月 22 日、パラグアイ共和国ファン・カルロス・ワスモシ大統領や当時の佐々木高久日本大使の臨席を得て、会員各位、協力者の方々など多数が参加しセントロ日系創立 10 周年記念式典を開催しました。同時に万博基金の助成による本館と付帯設備のオープニングセレモニーも挙行了しました。

2000 年にはイタグア市を通じて日本政府の社会への助成プログラムとして日本通り、2300 メートルの敷石舗装が実施されました。またセントロ日系本部において各種スポーツ等の活動を実施する回数が増えるのに伴い、訪問者の宿泊設備を計画する必要に迫られ、そこから日系社会融合の為の設備を提供しようという発想が生まれます。このプロジェクトは在パラグアイ日本大使館を通じて万博基金から助成対象に採択され、2001 年、セントロ日系本部建設第二ステージとして実施されました。完成後は大規模な各種スポーツの全パラグアイ大会や国際大会開催の場として活躍しています。

2006 年9月8日、「パラグアイ日本人移住 70 周年記念祭典」が開催されましたが、日本人・日系人の自前の場所で開催しようとの決意でセントロ日系イタグア本部を式典会場に選びました。日本から山中燐子外務大臣政務官そしてパラグアイ側からは



(写真:パラグアイ日本人移住70周年記念祭典)

ニカノル・ドゥアルテ大統領以下政府要人が出席、パラグアイに住む日本人・日系人、さらには全米各国からの日系人の代表など 1200 人が参加し盛大なものとなりました。セントロ日系メンバーは会場設定など準備を担当し当日も多くのメンバーが裏方として奮闘し祭典の成功に繋げました。

セントロ日系では本拠を構えるイタグア市において、周辺地域に有用となる活動を模索し、色々なイベントを開催また協力事業を実施する等、地域に貢献し、イタグア市からも高い評価を得ています。特に 2007 年の創設 20 周年には地域の診療の中心となる医療センター建設を目指し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」として在パラグアイ日本大使館や国際協力機構の全面的な協力を得て敷地正門横に診療所を開設しました。建物は無償で提供、光熱費などの経費はセントロ日系が負担する形で、イタグア市とセントラル県が共同で運営を行い、内科、眼科、歯科の医療分野ではこの地域の中核的な施設となっています。



(写真:診療所正面と完成記念プレート)

創立から 30 年近くが経過して当初は若手と呼ばれた人達も中高年と呼ばれる相応の年齢となり、現在では日系社会の中核を担っています。この時代の経過に伴いセントロ日系も日系社会の中で重要な役割を果たすようになってきています。この間にイタグア本部は整備が進み、当初描いていたような宿泊設備やスポーツ施設がある立派なクラブになっています。

移住の歴史も80年近くなり成熟期を迎え今後世代が交代し、日系社会の中核が二世から三世になって行きます。現在のセントロ日系の大きな目標は次世代の育成であり、毎年全国の日系青年が集まる大会を開催する等、親善交流を図っています。これからも未来に向けてセントロ日系は更に進化発展を続けていくことでしょう。



(写真:セントロ日系本部正面玄関と施設内プール)



(写真:セントロ日系本部・アサード会と青少年交流の集い)